

4 教育・人づくり分野

(1) 教育

高等学校卒業生（全日制・定時制課程）の大学等進学率（2022年3月卒）

青森県 52.1%（男 49.8% 女 54.4%） 全国平均 59.5%

高等学校卒業生（全日制・定時制課程）の就職率（ " ）

青森県 24.2%（男 29.9% 女 18.3%） 全国平均 14.7%

就職者のうち県内就職割合 62.6% 県外就職割合 37.4%

※大学等進学率は、大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

資料：文部科学省「学校基本調査」

① 学校数・在学者数・教員数の推移

少子化に伴い、県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の園児・児童・生徒数は年々減少している。なお、2015年4月の制度改正により新設された「幼保連携型認定こども園」については、既存の幼稚園や保育所からの移行が進み、年々増加している。（表1）

表1 学校数・在学者数・教員数

（単位：校、人）

区分	17 (H29)	18	19	20	21	2022年度 (R4)	
幼稚園	園数	94	88	88	87	86	85
	園児数	5,734	5,078	4,877	4,632	4,287	3,820
	教員数	678	619	637	636	665	643
幼保連携型 認定こども園	園数	182	209	233	239	245	247
	園児数	15,274	17,338	18,828	18,875	18,884	18,650
	教員数	2,945	3,353	3,748	3,843	3,923	3,890
小学校	学校数	289	287	282	269	263	259
	児童数	59,233	58,394	56,886	55,717	54,460	53,644
	教員数	4,753	4,749	4,677	4,536	4,464	4,444
中学校	学校数	161	162	160	159	157	156
	生徒数	33,921	32,137	31,052	30,206	29,940	29,042
	教員数	3,148	3,068	3,030	3,001	2,970	2,945
高等学校	学校数	78	77	76	77	77	71
	生徒数	36,327	35,350	34,117	32,658	31,087	29,937
	教員数	3,107	3,082	3,039	2,999	2,893	2,758
特別支援 学校	学校数	21	21	21	21	21	21
	生徒数	1,650	1,664	1,693	1,700	1,674	1,661
	教員数	1,068	1,061	1,065	1,084	1,097	1,094

※ 高等学校では全日制、定時制、通信制について記載。併置している学校は1校として計上している。

※ 高等学校・特別支援学校の生徒数は専攻科を除いている。

※ 特別支援学校の生徒数には、幼児・児童・生徒が含まれている。

※ 表中の教員数は本務者のみ計上している。

資料：文部科学省「学校基本調査」

② 県立高等学校の規模等（学科、定員）

表2 2023年度県立高等学校全日制・定時制・通信制・八戸水産専攻科 募集人員

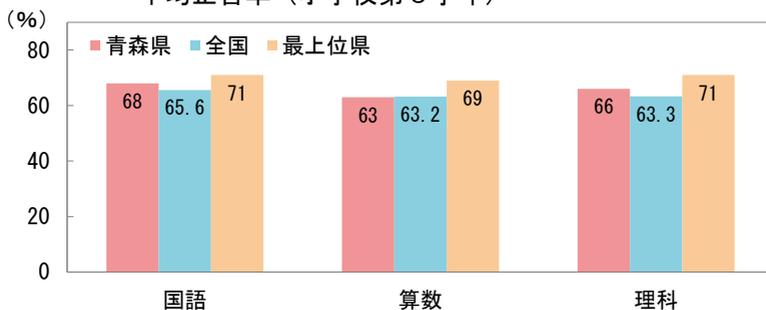
学校名	学科	募集人員(人)	学校名	学科	募集人員(人)	学校名	学科	募集人員(人)
青森	普通	240	柏木農業	生物生産	35	田名部	普通	200
青森西	普通	240		環境工学	35	大湊	総合	160
青森東	普通	240		食品科学	35	大間	普通	70
青森北	普通	160		生活科学	35	むつ工業	機械	35
	スポーツ科学	40	弘前工業	機械	35		電気	35
青森南	普通	160		電気	35		設備・エネルギー	35
	外国語	40		電子	35	八戸	普通	240
青森中央	総合	200		情報技術	35	八戸東	普通	200
浪岡	普通	70		土木	35		表	30
青森工業	機械	35		建築	35	八戸北	普通	240
	電気	35	弘前実業	商業	80	八戸西	普通	200
	電子	35		情報処理	40		スポーツ科学	40
	情報技術	35		家庭科学	40	三戸	普通	40
	建築	35		服飾デザイン	40	名久井農業	生物生産	35
	都市環境	35		スポーツ科学	40		環境システム	35
青森商業	商業	160	三本木	普通	240	八戸水産	海洋生産	35
	情報処理	40		普通	240		水産食品	35
五所川原	普通	160	野辺地	普通	80		水産工学	35
	理数	40	七戸	総合	120	八戸工業	機械	35
木造	総合	160	百石	普通	80		電気	35
鱒ヶ沢	普通	40		食物調理	40		電子	35
五所川原農林	生物生産	35	六ヶ所	普通	40		土木	35
	森林科学	35	三本木農業恵拓	普通	70		建築	35
	環境土木	35		植物科学	35		材料技術	35
	食品科学	35		動物科学	35	八戸商業	商業	80
五所川原工科	普通	70		環境工学	35		情報処理	40
	機械	35		食品科学	35	県立全日制計 7,325		
	電子機械	35	十和田工業	機械・エネルギー	35	北斗	普通(午前)	40
	電気	35		電気	35		普通(午後)	40
弘前	普通	240		電子	35		普通(夜間)	40
弘前中央	普通	240		建築	35	五所川原	普通(夜間)	40
弘前南	普通	200	三沢商業	商業	80	尾上総合	総合(I部)	40
黒石	普通	120		情報処理	40		総合(II部)	40
	情報デザイン	40					総合(III部)	40
	看護	40				三沢	普通(夜間)	40
						田名部	普通(夜間)	40
						八戸中央	普通(午前)	40
							普通(午後)	40
							普通(夜間)	40
						県立定時制計 480		
						北斗	普通	200
						尾上総合	普通	150
						八戸中央	普通	150
						県立通信制計 500		
						八戸水産	漁業	10
							機関	10
						八戸水産専攻科計 20		

資料：県教育庁

③ 全国学力・学習状況調査に見る本県の児童生徒の学力

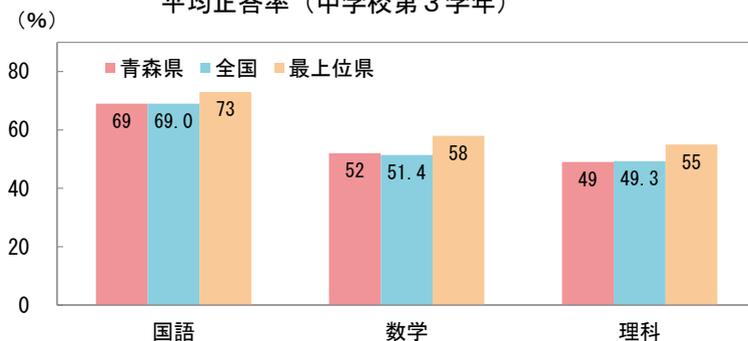
2022年度における本県公立小・中学校の児童生徒の学力は、教科に関する調査（対象：小学校第6学年及び中学校第3学年）の平均正答率を比較すると、小学校は国語及び理科が全国の平均正答率を上回り、算数は全国の平均正答率と同程度であり、中学校は国語、数学及び理科が全国の平均正答率と同程度である。（図3、図4）

図3 令和4年度全国学力・学習状況調査における平均正答率（小学校第6学年）



資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

図4 令和4年度全国学力・学習状況調査における平均正答率（中学校第3学年）

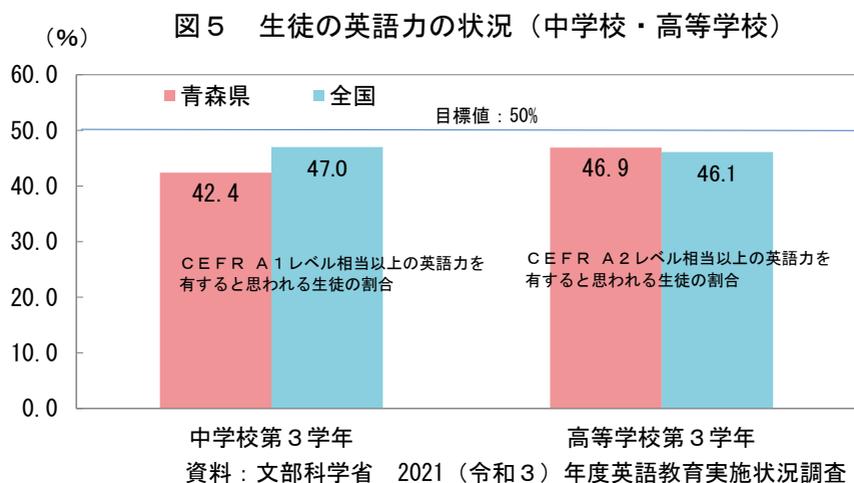


資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

④ 本県の生徒の英語力の状況

本県の中学校第3学年に属する生徒のうちCEFR[※] A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均より低くなっている。高等学校第3学年に属する生徒のうちCEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均より高いが、国の掲げる目標値（50%）には達していない。（図5）

※ CEFR：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1レベルは実用英語技能検定における準2級～3級相当、A2レベルは同検定における2級～準2級相当。

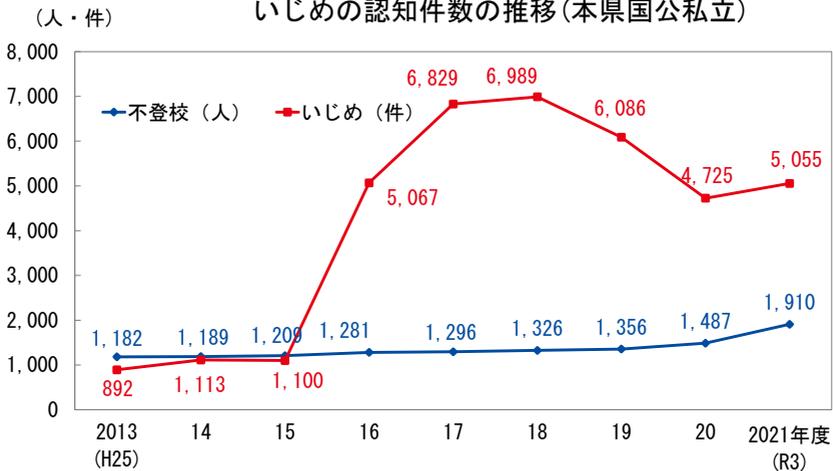


⑤ 本県の児童生徒のいじめ・不登校の状況

本県小・中学校における不登校児童生徒数は、2013年以降、増加傾向にある。

また、小・中学校におけるいじめの認知件数は、いじめの早期発見や積極的な認知を働きかけてきたところ、2016年度から大幅に増加した。2019年度から減少に転じたものの、2021年度は再び増加した。いじめの早期発見・解消に向けては、スクールカウンセラーの配置など相談体制の充実に取り組んでいる。(図6、表7)

図6 小・中学校における不登校児童生徒数、
いじめの認知件数の推移(本県国公立)



資料: 文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

表7 スクールカウンセラー配置・派遣学校数及び延べ相談者数(公立小・中学校)

年度	2013 (H25)	14	15	16	17	18	19	2020	2021 (R3)
スクールカウンセラー配置・派遣学校数(校)	126	144	161	186	275	360	430	416	401
スクールカウンセラー延べ相談者数(人)	12,205	15,148	17,293	21,881	24,301	24,104	20,449	22,244	23,244

資料: 県教育庁

⑥ 職場体験・インターンシップ実施状況

公立中学校の職場体験実施率は2019年度において96.8%と前年度より増加した。年間5日以上実施率は2.0%と前年度より3.3ポイント減少し、全国平均を大きく下回っている。

また、公立高等学校におけるインターンシップ実施校の割合は前年度より増加したものの、全国平均を下回る状況が続いている。(表8)

※2020年度以降は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、調査実施が見送られている。

表8 職場体験・インターンシップ実施状況

(単位：校、%)

区 分	2015 (H27)	16	17	18	2019年度 (R1)
職場体験実施校(青森県)	157	153	153	150	149
職場体験実施率(青森県)	98.1	95.6	98.1	96.2	96.8
職場体験実施率(全国)	98.3	98.1	98.6	97.7	97.9
年間5日以上実施率(青森県)	5.1	5.2	3.9	5.3	2.0
年間5日以上実施率(全国)	12.7	12.8	12.2	11.9	13.9
インターンシップ実施校(青森県)	54	51	52	51	53
インターンシップ実施率(青森県)	77.1	73.9	77.6	77.3	81.5
インターンシップ実施率(全国)	81.8	83.7	84.8	84.9	85.0

※ 職場体験は公立中学校、インターンシップは公立高等学校(全日制・定時制)の実施状況。

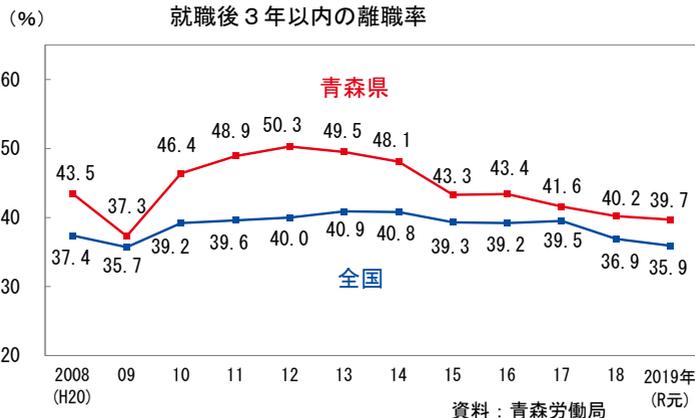
※ 実施率は学校数に対する実施校の割合。

資料：国立教育政策研究所「職場体験・インターンシップ実施状況等調査」

⑦ 県内企業における新規高等学校卒業者の離職率

県内企業における新規高等学校卒業者の就職後3年以内の離職率は、2012年以降減少傾向にあるが、全国平均より高い状況が続いている。(図9)

図9 県内企業における新規高等学校卒業者の就職後3年以内の離職率



⑧ 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率

近年、本県の高等学校卒業者の大学等進学率・就職率は、全国と同様大学等進学率は上昇傾向、就職率は減少傾向にある。2022年3月卒の生徒は全国的に大学等へ進学する傾向が高まったが、本県においてはその傾向がより強く表れている。

本県では経済的な要因等もあり、高等学校卒業後に就職を希望する生徒の割合が高いが、一方で景気動向などの経済情勢の変化や、企業の雇用環境の動向などにより、大学等進学率・就職率に変動が見られる。(図10、図11)

図10 高等学校卒業者の大学等進学率

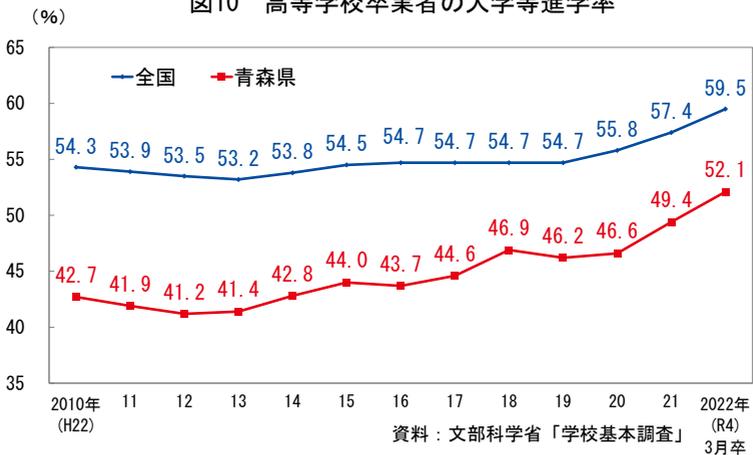
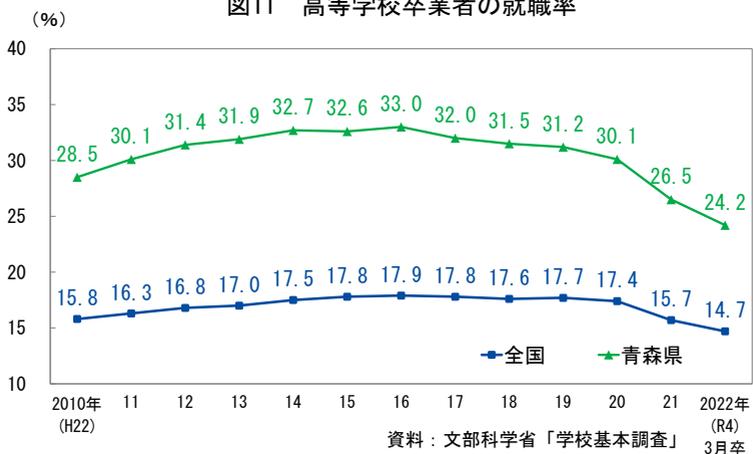


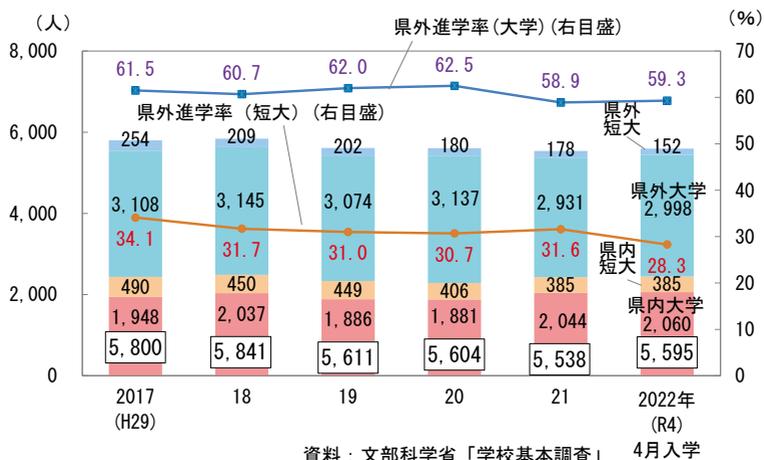
図11 高等学校卒業者の就職率



⑨ 県内高校出身者の大学・短期大学への入学状況

県内の高等学校を卒業し、2022年4月に大学・短期大学へ入学した者は、5,595人であり、前年から57人増加した。大学入学者の県外進学率は、近年60%程度となっている。(図12)

図12 県内高校出身者の大学・短大への入学状況



⑩ 高等教育機関在学者数の推移

2022年度の県内の大学等の高等教育機関数は、大学が10校（県外に本部を置く北里大学を除く）、短期大学が5校、高等専門学校が1校の計16校、在学者数は1万8,534人となっている。

県内の高等教育機関在学者数は、おおむね1万8,000人台で推移している。

(図13、次頁表14)

図13 県内大学・短期大学・高等専門学校在学者数

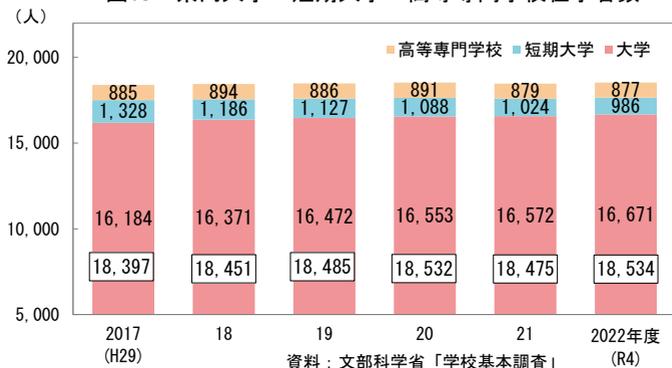
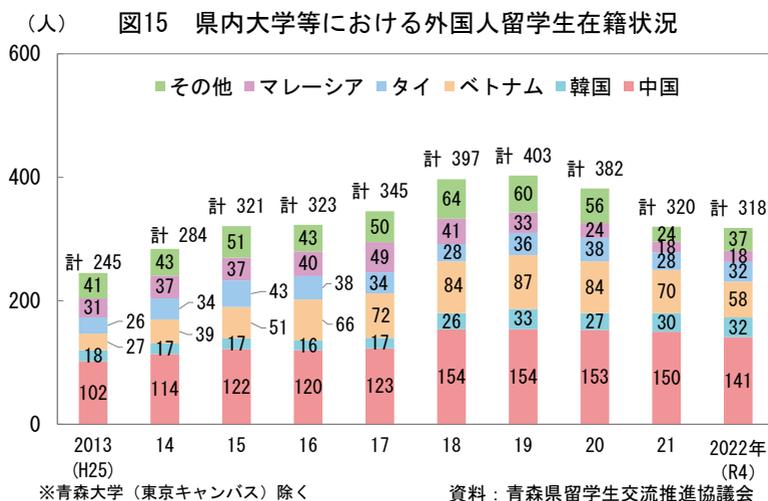


表14 青森県内の大学・短期大学等(2023年4月現在)

区分	名称	学 部	学 科	
大 学	弘前大学	人文社会科学部 教育学部 医学部 理工学部	文化創生課程、社会経営課程 学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程 医学科、保健学科、心理支援科学科 数物科学科、物質創成化学科、地球環境防災学科、 電子情報工学科、機械科学科、自然エネルギー学科 生物学科、分子生命科学科、食料資源学科、 国際園芸農学科、地域環境工学科	
		農学生命科学部	人文社会科学専攻 教職実践専攻(専門職学位課程) 医科学専攻 保健学専攻 理工学専攻 機能創成科学専攻、安全システム工学専攻 農学生命科学専攻 地域社会専攻 地域リノベーション専攻、産業創成科学専攻 生物生産科学専攻、生物資源科学専攻、 地域環境創生学専攻	
	(大学院)	人文社会科学研究科(修士課程) 教育学研究科(専門職学位課程) 医学研究科(博士課程) 保健学研究科(博士前期/後期課程) 理工学研究科(博士前期課程) 理工学研究科(博士後期課程) 農学生命科学研究科(修士課程) 地域社会研究科(後期3年博士課程) 地域共創科学研究科(修士課程) 岩手大学大学院連合農学研究科(博士後期課程)		
	青森県立保健大学 (大学院)	健康科学部 健康科学研究科(博士前期/後期課程)	看護学科、理学療法学科、社会福祉学科、栄養学科 健康科学専攻	
	青森公立大学 (大学院)	経営経済学部 経営経済学研究科(博士前期/後期課程)	経営学科、経済学科、地域みらい学科 経営経済学専攻	
	北里大学 (大学院)	獣医学部 獣医学系研究科(修士課程) 獣医学系研究科(博士課程)	獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科 動物資源科学専攻、生物環境科学専攻 獣医学専攻、動物資源科学専攻	
	青森大学	総合経営学部 社会学部 ソフトウェア情報学部 薬学部	経営学科 社会学科 ソフトウェア情報学科 薬学科	
	青森中央学院大学 (大学院)	経営法学部 看護学部 地域マネジメント研究科(修士課程)	経営法学科 看護学科 地域マネジメント専攻	
	私 立	柴田学園大学	生活創生学部	健康栄養学科、こども発達学科、フードマネジメント学科
	大 学	弘前学院大学	文学部 社会福祉学部 看護学部	英語・英米文学科、日本語・日本文学科 社会福祉学科 看護学科
(大学院)			文学研究科(修士課程) 社会福祉学研究科(修士課程)	日本文学専攻 人間福祉専攻
弘前医療福祉大学		保健学部	看護学科 医療技術学科(作業療法学専攻、言語聴覚学専攻)	
八戸工業大学 (大学院)		工学部 感性デザイン学部 工学研究科(博士前期/後期課程)	工学科 感性デザイン学科 機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻	
八戸学院大学		地域経営学部 健康医療学部	地域経営学科 人間健康学科、看護学科	
短 期 大 学		私 立	青森明の星短期大学 青森中央短期大学 柴田学園大学短期大学部 弘前医療福祉大学短期大学部 八戸学院短期大学部	子ども福祉未来学科 食物栄養学科、幼児保育学科、専攻福祉専攻 生活科、保育科 救急救命学科、介護福祉学科、口腔衛生学科 幼児保育学科、介護福祉学科
独立行政法人国立高等専門学校機構	八戸工業高等専門学校	産業システム工学科(本科) 産業システム工学専攻(専攻科)		

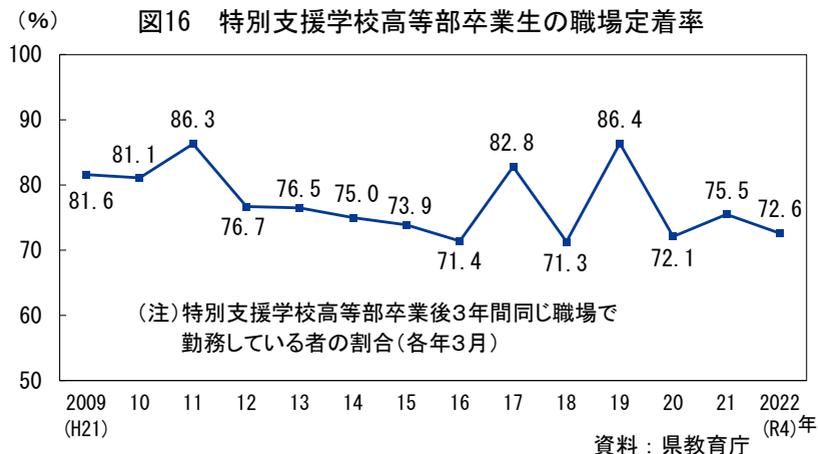
⑪ 留学生の在学状況

県内の大学、短期大学、高等専門学校に在籍する外国人留学生は2022年5月1日現在で318人となっており、うち中国からの留学生が全体の44.3%を占めている。教育機関のPR強化等により、2013年以降増加傾向にあり、東日本大震災前の水準に回復していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う入国制限が影響し、2020年以降は減少が続いている。(図15)



⑫ 特別支援学校高等部卒業生の職場定着率

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率は、70%以上を維持している。(図16)

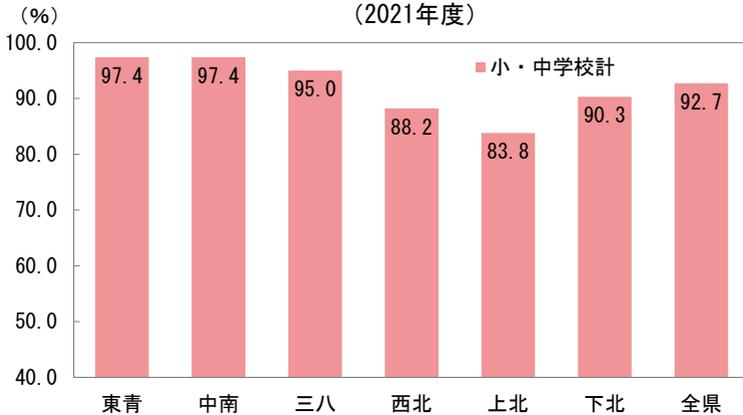


⑬ 地域学校協働活動の実施状況

県内の公立小・中学校で、地域学校協働活動を実施している割合は、2021年度において92.7%であり、地域ぐるみの協働活動が広がっている。(図17)

地域学校協働活動の内容は、割合の高い順に「校内外の見まわり、登下校の見守り」(48.2%)、「総合的な学習の時間の指導」(47.9%)、「健康安全・体育的行事の補助」(47.4%)となっている。

図17 県内小・中学校における地域学校協働活動の実施状況 (2021年度)



資料：県教育庁「学校と地域との連携に関するアンケート調査」

⑭ 図書館の利用状況

2022年4月1日現在、県内には35の図書館がある。図書を借用して館外に持ち出した者(帯出者)の延べ人数は、2008年度と比較して2018年度は14.4%減少しているが、貸出冊数は1.4%増加している。(表18)

表18 図書館の利用状況

区分	2008	2011	2015	2018年度
登録者数(人)	190,338	180,394	140,097	131,531
うち児童	16,470	22,861	16,871	15,939
帯出者数(人)	1,142,932	1,158,017	1,031,890	978,462
うち児童	161,252	144,897	154,779	135,843
貸出冊数(冊)	3,550,526	3,633,237	3,573,857	3,599,813
うち児童書	633,814	650,672	739,471	908,526

※ 登録者数、帯出者数等で児童数内訳を把握できない図書館あり。

資料：文部科学省「社会教育調査」

(2) 人づくり、移住・交流

移住相談・情報提供件数（2021年度）	12,854件	
在留外国人数	青森県	全国
（2021年末）	5,693人（男2,197,女3,496）	276万635人
うち中国	888人（男313,女575）	71万6,606人
韓国	699人（男330,女369）	40万9,855人
ベトナム	1,827人（男592,女1,235）	43万2,934人

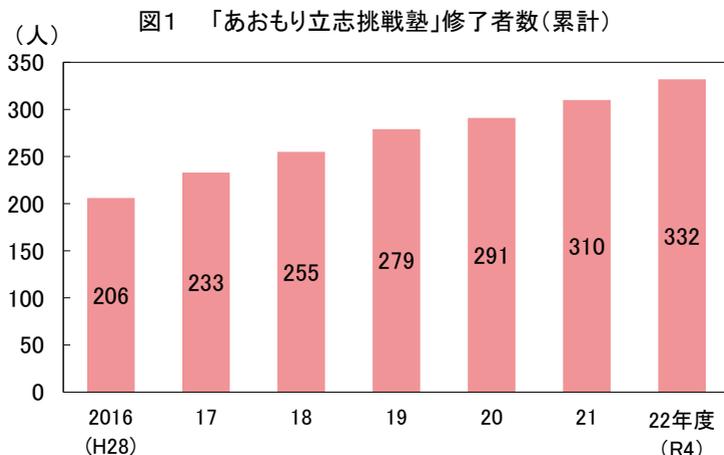
資料：県企画政策部、法務省「在留外国人統計」

① あおもり立志挑戦塾の修了者数

「あおもり立志挑戦塾」（寺島実郎塾長）は、本県の経済や地域づくりをけん引していく気概とチャレンジ精神、自由で柔軟な発想力、そして広い視野を持って、何事にも果敢に挑戦していく人材の育成とネットワークづくりを目的に、20～30代の県内社会人を対象に開催される人材育成の取組である。

塾では、塾長や多彩な講師による講話や、同世代の仲間とのグループディスカッション等を通じて、自らが生涯を通じて達成を目指す「人生の志」を立てるなど、自らの人生観や新たな世界観を広げ、成長する場を提供している。

2008年からこれまでに332名（1期～15期生）が塾を修了しており、「あおもり立志挑戦の会」（ARC）を設立し、地域貢献活動を行うなど、県内各地域・各分野で活躍している。（図1）



資料：県企画政策部

② 首都圏における移住・相談窓口の設置状況

本県の首都圏における情報発信と移住相談窓口として「青森暮らしサポートセンター」を東京都内に設置し、専属の移住相談員による常時の相談体制を整えるとともに、首都圏等においてセミナーを開催するなど、移住・交流の促進に取り組んでいる。

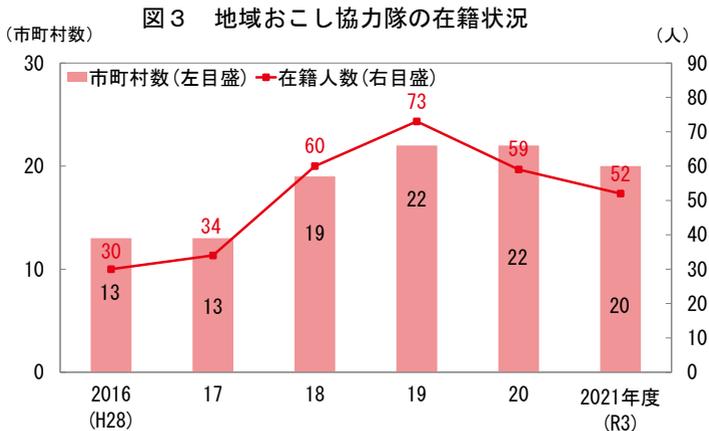
また、東青圏域、弘前市、八戸圏域、つがる市では、首都圏における相談窓口を設置している。(表2)

表2 移住・相談窓口の設置状況

対象エリア	名称	所在地
青森県全域	青森暮らしサポートセンター	東京交通会館 8階 (ふるさと回帰支援センター内)
東青圏域	AoMoLink ~赤坂~あおもり地域ビジネス交流センター	東京都港区赤坂
弘前市	ひろさき移住サポートセンター東京事務所	東京交通会館 6階
八戸圏域	八戸圏域連携中枢都市圏 観光・UIJターン窓口	全国都市会館 5階 (八戸市東京事務所内)
	八戸都市圏交流プラザ8base	東京都千代田区内幸町
つがる市	つがる市東京事務所	東京都新宿区神楽坂

③ 地域おこし協力隊の在籍状況

2022年3月末時点で、20市町村で52名の隊員が地域活動に従事している。(図3)



※ 在籍状況は、各年度3月末時点の在籍状況。

※ 地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等へ生活の拠点を移し、おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受けて地域で生活し、農林漁業の応援、住民の生活支援などの各種の地域活動に従事する者をいう。

④ 外国人登録者数

県内外国人登録者数は近年増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年以降は減少し、2021年12月末時点で5,693人となっている。

国籍別の内訳は、アジア地域が全体の88.4%を占め、ベトナム、中国、韓国・朝鮮の割合が大きくなっている。近年、ベトナムの伸びが大きく、2018年以降、中国を抜いて1位となっている。(表4)

表4 県内主要国籍別外国人登録者数

(単位：人)

地域・国	2016年 (H28)	17年	18年	19年	2020年	2021年 (R3)
アジア	3,922	4,472	5,069	5,676	5,547	5,035
中国	1,106	1,217	1,285	1,335	1,139	888
韓国・朝鮮	844	838	845	855	781	757
フィリピン	551	589	656	736	732	727
ベトナム	771	1,093	1,502	1,896	2,007	1,827
その他	650	735	781	854	888	836
ヨーロッパ	131	123	141	147	124	138
北アメリカ	425	434	448	438	389	419
南アメリカ	38	37	63	65	48	44
オセアニア	30	35	46	43	35	37
アフリカ	21	19	18	17	20	20
無国籍	1	1	1	0	2	0
計	4,568	5,121	5,786	6,386	6,165	5,693

資料：法務省「在留外国人統計」

在留資格別に内訳を見ると、永住・定住を除き技能実習の割合が最も多く、2019年までは大きく伸びていたが、2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にある。同様に他の在留資格においても、2020年以降の伸び率は減少傾向にある。(次頁表5)

表5 県内在留資格別外国人登録者数

(単位：人)

在留資格	2016年 (H28)	17年	18年	19年	2020年	2021年 (R3)	構成比	対前年
							(%)	伸び率 (%)
留学	352	384	414	438	311	251	4.4	△ 19.3
技能実習	1,271	1,650	2,099	2,552	2,354	1,835	32.2	△ 22.0
高度専門職(※2015年新設)	3	6	12	10	11	13	0.2	18.2
技能	81	67	55	49	47	42	0.7	△ 10.6
技術・人文知識・国際業務	151	188	247	337	344	337	5.9	△ 2.0
教育	143	144	159	164	130	158	2.8	21.5
教授	15	14	17	18	19	13	0.2	△ 31.6
永住・定住	2,232	2,242	2,268	2,295	2,206	2,212	38.9	0.3
その他	320	426	515	523	743	832	14.6	12.0
計	4,568	5,121	5,786	6,386	6,165	5,693	100.0	△ 7.7

資料：法務省「在留外国人統計」

※在留資格者の該当例

留学：大学、短期大学、高等専門学校、高等学校中学校及び小学校等の学生・生徒

技能実習：技能実習生

高度専門職：ポイント制による高度人材

技能：外国料理の調理師、スポーツ指導者、航空機の操縦者、貴金属等の加工職人等

技術・人文知識・国際業務：機械工学等の技術者、通訳、デザイナー、私企業の語学教師、マーケティング業務従事者等

教育：中学校・高等学校等の語学教師等

教授：大学教授等

永住・定住：法務大臣から永住の許可を受けた者、日本人の配偶者・子・特別養子、永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子、第三国定住難民、日系3世、中国在留邦人等

⑤ 本県の友好提携

本県の国際交流に係る協定等は、1980年にサンタ・カタリーナ州（ブラジル連邦共和国）、1992年にハバロフスク地方（ロシア連邦）、1994年にメーン州（アメリカ合衆国）、2002年にリグーリア州（イタリア共和国）、2004年に大連市（中華人民共和国）、2016年に済州特別自治道（大韓民国）及び台中市（台湾）、2017年に台南市（台湾）と締結している。

市町村では20市町村が友好提携（2022年12月現在）を結び、教育、文化、芸術など様々な分野で地域の特色を生かした交流を行っている。（次頁表6）

表6 県内自治体の姉妹・友好提携一覧

団体名	国名・地域	姉妹・友好提携先	提携年月日	
青森県	ブラジル連邦共和国	サンタ・カタリーナ州	1980. 10. 23	
	ロシア連邦	ハバロフスク地方	1992. 8. 27	
	アメリカ合衆国	メーン州	1994. 5. 25	
	イタリア共和国	リグーリア州	2002. 5. 7	
	中華人民共和国	遼寧省大連（ダイレン）市	2004. 12. 24	
	大韓民国	済州（チェジュ）特別自治道	2016. 8. 8	
	台湾	台中市 ※平川市を含む三者による協定	2016. 12. 14	
	台湾	台南市 ※弘前市を含む三者による覚書	2017. 12. 4	
市	青森市	ハンガリー共和国	バーチ・キシュクン県ケチケメート市	1994. 8. 4
		大韓民国	京畿道平澤（ピョンテク）市	1995. 8. 28
		中華人民共和国	遼寧省大連市	2004. 12. 24
		台湾	新竹県	2014. 10. 17
	弘前市	台湾	台南市 ※県を含む三者による覚書	2017. 12. 4
	八戸市	アメリカ合衆国	ワシントン州フェデラルウェイ市	1993. 8. 1
		中華人民共和国	甘肅省蘭州（ランシュウ）市	1998. 4. 14
	黒石市	アメリカ合衆国	ワシントン州ウエナッチ市	1971. 10. 5
		大韓民国	慶尚北道永川（ヨンチョン）市	1984. 8. 17
	三沢市	アメリカ合衆国	ワシントン州ウエナッチ市	1981. 10. 4
		アメリカ合衆国	ワシントン州東ウエナッチ市	2001. 8. 23
	むつ市	アメリカ合衆国	ワシントン州ポートエンジェルズ市	1995. 8. 14
	つがる市	アメリカ合衆国	メーン州パス市	2006. 7. 6
	平川市	台湾	台中市 ※県を含む三者による協定	2016. 12. 14
	鯉ヶ沢町	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州サン・セバスチオン市	1984. 10. 26
	深浦町	フィンランド共和国	ラップランド州ラヌア郡	1990. 6. 26
	西目屋村	中華人民共和国	吉林省梨樹県葉赫満族鎮（ヨウカクマンゾクチン）	1985. 4. 29
	大鰐町	アメリカ合衆国	ミシガン州ノーバイ市	1991. 12. 20
	板柳町	アメリカ合衆国	ワシントン州ヤキマ市	1972. 2. 3
		中華人民共和国	北京市昌平（ショウヘイ）区	1993. 6. 23
鶴田町	アメリカ合衆国	オレゴン州フッドリバー市	1977. 7. 27	
七戸町	大韓民国	慶尚南道河東（ハドン）郡	1994. 11. 16	
六ヶ所村	ドイツ連邦共和国	メクレンブルク・フォアポンメルン州ヴァーレン市	1994. 4. 22	
大間町	台湾	雲林県虎尾鎮（コピチン）	1979. 10. 10	
三戸町	オーストラリア連邦	ニューサウスウェールズ州タムワース市	2001. 7. 5	
五戸町	フィリピン共和国	ヌエバ・ビスカヤ州バヨンボン町	1983. 12. 22	
	大韓民国	忠清北道沃川（オクチョン）郡	1997. 8. 28	
田子町	アメリカ合衆国	カリフォルニア州ギルロイ市	1988. 4. 18	
	イタリア共和国	ピアツェンツァ郡モンティチェリ・ドンジーナ町	1992. 9. 11	
	大韓民国	忠清南道瑞山（ソサン）市	2012. 6. 22	

資料：県観光国際戦略局

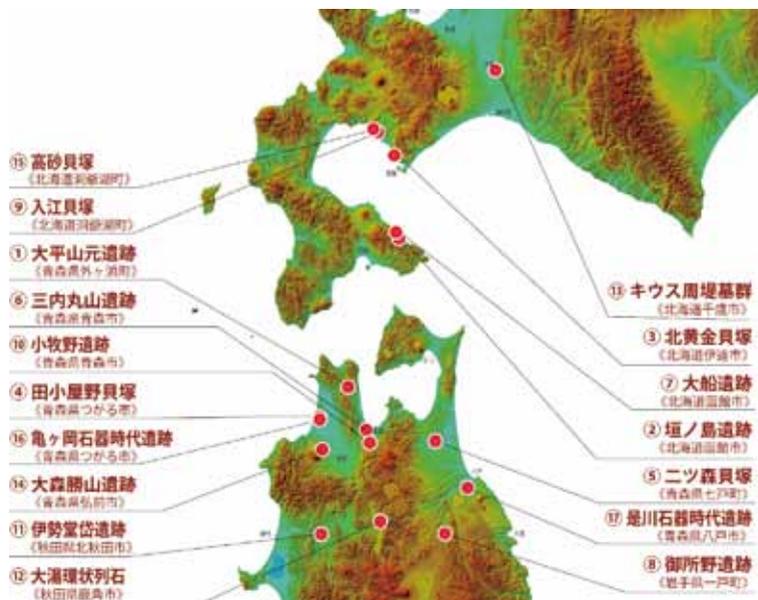
(3) 文化・スポーツ

県立郷土館利用者数（2021年度）	約1万4千人
県立美術館入館者数（ ” ）	約4万2千人
県内の公共スポーツ施設（2018年度）	798施設
第77回国民体育大会（2022年）	天皇杯42位（前回45位）

資料：文部科学省「2018（平成30）年度体育・スポーツ施設現況調査」、県教育庁、県観光国際戦略局

① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産

2021年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17の構成資産のうち8つが県内に所在している。



※国土地理院タイルを使用して作成

地理院タイル一覧ページ (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大森勝山遺跡、是川石器時代遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、大平山元遺跡、ニツ森貝塚

北海道：大船遺跡、垣ノ島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂貝塚（入江貝塚）、入江・高砂貝塚（高砂貝塚）

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡

② ユネスコ無形文化遺産

重要無形民俗文化財「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33件の祭りで構成される「山・鉾・屋台行事」が、2016年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されている。

③ 日本遺産

県無形民俗文化財である「鱒ヶ沢白八幡宮の大祭行事」や、県重宝である深浦町の円覚寺宝篋印塔、野辺地町の町指定史跡「浜町の常夜燈」などの文化財を含む「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が、日本遺産に認定されている。（日本海及び瀬戸内海沿岸自治体により構成）

④ 文化財

表1 国・県指定文化財一覧（2023年2月1日現在）

【国指定】		【県指定】		【国選定等】	
国宝		県重宝		選定	
工芸品	2	建造物	46	重要伝統的建造物群保存地区	2
考古資料	1	絵画	7	選定保存技術	1
重要文化財		彫刻	31	登録	
建造物	34	工芸品	30	登録有形文化財（建造物）	101
彫刻	2	書跡	3	登録有形民俗文化財	1
工芸品	7	考古資料	31	登録記念物	4
考古資料	13	歴史資料	12	記録選択	
重要無形文化財		無形文化財		記録作成等の措置を講ずべき	
工芸技術	1	県技芸	2	無形文化財	1
民俗文化財		民俗文化財		記録作成等の措置を講ずべき	15
重要有形民俗文化財	8	県有形民俗文化財	12	無形の民俗文化財	
重要無形民俗文化財	8	県無形民俗文化財	56	重要美術品	
記念物		記念物		書跡	4
特別史跡	1	県史跡	20	考古資料	1
史跡	22	県名勝	1	合計	130
特別名勝及び天然記念物	1	県天然記念物	40		
名勝及び天然記念物	1	合計	291		
名勝	8				
特別天然記念物	2				
天然記念物	16				
合計	127				

資料：県教育庁

【国指定の主な文化財】

国宝 [工芸品]

あかいとおどしよろい かぶと おおそでつき しろいとおどしつまりよろいかぶと おおそでつき
赤糸威 鎧 兜、大袖付、白糸威 褌取 鎧 兜、大袖付 (いずれも八戸市)

国宝 [考古資料]

合掌土偶 (八戸市風張 1 遺跡出土)

重要文化財 [建造物]

弘前城、最勝院五重塔 (いずれも弘前市)、櫛引八幡宮本殿 (八戸市)

重要無形文化財 [工芸技術]

津軽塗

重要無形民俗文化財

青森のねぶた、八戸のえんぶり、下北の能舞

記念物 [特別史跡]

三内丸山遺跡 (青森市)

記念物 [特別名勝及び天然記念物]

十和田湖および奥入瀬溪流 (十和田市)

⑤ 伝統工芸

県内には、津軽塗や南部裂織を始め、地域に生まれ、生活の中で育まれてきた優れた伝統工芸品が数多く存在する。これらの多くは、後継者や販路の確保といった課題を抱えていることから、県では、伝統工芸品の価値の再評価とその作り手の意識の向上を図るため、一定の要件を満たすものを「青森県伝統工芸品」に指定している。(表 2)

表 2 青森県伝統工芸品一覧表

工芸品名	市町村名	工芸品名	市町村名
津軽塗	弘前市	津軽びいどろ	青森市
津軽焼	弘前市	錦石	青森市、弘前市、外ヶ浜町
八戸焼	八戸市	南部姫毯	南部町
下川原焼土人形	弘前市	えんぶり烏帽子	八戸市
あけび蔓細工	弘前市	きみがらスリッパ	十和田市
津軽竹籠	弘前市	目屋人形	西目屋村
こぎん刺し	青森市、弘前市、五所川原市	津軽打刃物	弘前市
南部裂織	青森市、八戸市、十和田市 むつ市、七戸町、佐井村 五戸町	津軽桐下駄	弘前市
南部菱刺し	八戸市、十和田市、 おいらせ町、五戸町	南部総桐箆箆	八戸市
温湯こけし・ずぐり独楽	黒石市	太鼓	弘前市
大罎こけし・ずぐり	大罎町	ねぶたハネト人形	青森市
弘前こけし・木地玩具	弘前市	津軽裂織	青森市、平内町、つがる市
八幡馬	八戸市	津軽組ひも	五所川原市
善知鳥彫ダルマ	青森市	五戸ばおり	五戸町
津軽風	弘前市	ブナコ	弘前市
		南部花形組子	八戸市
		金魚ねぶた	弘前市
		津軽傳統組子	弘前市

資料：県商工労働部

⑥ 祭り

本県には、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」、歴史と文化に彩られた津軽の夏の風物詩「弘前ねぶたまつり」、様々な趣向を凝らした山車の迫力や華麗さが魅力の「八戸三社大祭」、奥津軽の夏の夜空を焦がす勇壮絢爛な「五所川原立佞武多」、京都祇園祭の流れを汲む豪華絢爛な「田名部まつり」などの夏祭りや、三八地域に春を呼ぶ豊作祈願の祭りである「えんぶり」を始め、県内各地に四季折々の伝統的な祭りが数多くある。

これらの祭りは、観光資源としてはもとより、少子化・高齢化が進む中において、地域の絆を強め、コミュニティ機能を維持していく上でも重要な役割を担っており、地域に根ざした県民共通の財産として、未来へ伝えていく必要がある。

⑦ 本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手

本県の豊かな自然や風土に育まれて、多くの県人が文学やアート、芸能、スポーツなど様々な分野で多彩な活躍をしている。(表3：敬称略)

表3 本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手など

文学・ ジャー ナリス ム	クガ カツナン 陸 羯南 (1857～1907)	新聞「日本」を創刊し、明治時代における我が国の言論界をリードした。	科学 技術	イシダテ モリツグ 石館 守三 (1901～1996)	薬学の世界的権威で、東京大学初代薬学部長。ハンセン病の治療薬「プロミン」の国産化や、国産初のがん化学療法剤「ナイトロミン」の創製に成功した。
	ハニ 羽仁 もと子 (1873～1957)	日本初の女性記者。「家庭之友」(のち「婦人之友」)を創刊するとともに、自由教育を推進するため、「自由学園」を創設した。		キムラ ヒロササ 木村 秀政 (1904～1986)	東京帝国大学(現東京大学)航空研究所が設計し、長距離飛行記録を達成した「航研機」の制作や、初の国産旅客機「YS11」の開発に携わった。
	イシザカ ヨウジロウ 石坂 洋次郎 (1900～1986)	軽快な青春小説で国民的な人気を博した作家。戦後発表された「青い山脈」が大ヒットし、「百万人の作家」と称され、一世を風靡した。		ニシヤマ ショウジ 西山 正治 (1922～1993)	医師。世界初の「レントゲン車」を考案、開発するとともに、多方向から患部を撮影できる「ジャイロスコープ」の開発に取り組んだ。
	ダライ オサム 太宰 治 (1909～1948)	近代日本文学を代表する作家。「人間失格」「斜陽」「走れメロス」を始め、多くの作品を世に出した。2009年に生誕100周年を迎え、作品が映画化されるなど再び人気が高まっている。		カワグチ ジュンイチロウ 川口 淳一郎 (1955～)	小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。2010年、「はやぶさ」は7年の歳月を経て、小惑星「イトカワ」から帰還するという世界初の快挙を達成した。
	ミウラ テツオ 三浦 哲郎 (1931～2010)	1961年「忍ぶ川」で、異人初となる、第44回芥川賞を受賞。その後も様々な作品を発表し、数多くの文学賞を受賞した。			
	オサベ ヒデオ 長部 日出雄 (1934～2018)	弘前市出身の小説家、評論家。1973年、「津軽じよんがら節」と「津軽世去れ節」により第69回直木賞を受賞。			
	テラヤマ シュウジ 寺山 修司 (1935～1983)	歌人、詩人、劇作家、映画監督など、多くの分野で活躍。演劇実験室「天井桟敷」を結成し、海外公演も手がけるなど、マルチな才能を発揮した。			
	サワダ キョウイチ 沢田 教一 (1936～1970)	報道カメラマンとして、ベトナム戦争の最前線で取材を行った。撮影した写真は国際的に高い評価を受け、「安全への逃避」はピューリッツァー賞に輝いた。			
	ウメナイ ミカコ 梅内 美華子 (1970～)	歌人。2011年、歌集「エクス」が高い評価を受け、文化庁の芸術選奨新人賞を受賞。			
	タカハシ ヒロキ 高橋 弘希 (1979～)	十和田市生まれの小説家。2018年、「送り火」で第159回芥川賞を受賞。県出身者では、三浦哲郎以来57年ぶりの受賞。			
	ゴ カツヒロ 呉 勝浩 (1981～)	八戸市生まれの小説家。2020年、「スワン」で第73回日本推理作家協会賞及び第41回吉川英治文学新人賞を受賞。			

美術・音楽	ムナカタ ショウ 榎方 志功 (1903～1975)	「世界のムナカタ」と呼ばれ、20世紀を代表する世界的な「版画家」である。大胆かつ独創的な表現で、他に類を見ない独特の世界を築いた。	スポーツ選手など	オオタ シノブ 太田 忍 (1993～)	五戸町出身。2016年リオデジャネイロオリンピック男子レスリンググレコローマン59キロ級で、銀メダルを獲得。
	アワヤ 淡谷 のり子 (1907～1999)	東洋音楽学校（現在の東京音楽大学）を首席で卒業し、歌謡界へ。日本のシンチンソンの先駆者となる。「別れのブルース」「雨のブルース」が大ヒットし、「ブルースの女王」と呼ばれた。		イズミヤ 泉谷 しげる (1948～)	青森市長島で生まれ、東京都で育つ。フォークシンガーや役者として活躍中。東北新幹線全線開業のテレビCMでは、新青森駅長を好演した。
	タカヤマ ウイチ 藤島 宇一 (1908～1999)	画家。花やチョウなどをモチーフに、幻想的な画風で日本画壇に新風を巻き込むとともに、二科会の重鎮としても活躍した。		キノ ハナ 野村 花 (1948～)	女優・演出家。弘前大学教育学部美術学科卒業。80年代小劇場ブームの旗手的な存在。2013年NHK連続テレビ小説「あまちゃん」にレギュラー出演。
	タカハシ テクザン 高橋 竹山 (1910～1998)	津軽三味線を国内はもとより海外へも広めた津軽三味線演奏の第一人者。アメリカ公演では、「三味線の名匠」と絶賛された。		ミカミ カン 三上 寛 (1950～)	日本を代表するフォークシンガー。青森をバックボーンに津軽を原風景とした人間の生き様を歌い続ける。詩人として詩集やエッセイも多数。
	クドウ コウシ 工藤 甲人 (1915～2011)	現代日本画界を代表する一人。戦後、湧き起こった新しい日本画の創造を目指す活動に共感し、心象イメージを絵画世界に表す独特の作風を築き上げた。		ヨシ イクワ 吉 幾三 (1952～)	歌手。1977年に自身の作詞・作曲による「俺はぜったい！ブルース」がヒット。代表曲「俺ら東京さ行くだ」「雪国」「酒よ」など。
	ナリタ トオル 成田 亨 (1929～2002)	彫刻家、特撮美術監督。「ウルトラマン」シリーズの多くの怪獣、宇宙人、宇宙メカのデザインを手がけ、現代日本文化を代表するモチーフを生み出した。		2代目 イチカワ エミヤ 市川 笑也 (1959～)	歌舞伎俳優。スーパー歌舞伎のヒロインの歌を射止め、一躍スターに。2003年に本県で開催された第5回冬季アジア競技大会では、開閉会式の総合演出を担当。
	ナラ ヨシトモ 奈良 美智 (1959～)	我が国を代表する現代美術家。国際的にも高い評価を受けており、独特の風貌の少女を描いた作品や、青森県立美術館にある「あおもり犬」で有名。		サトウ テクザン 佐藤 竹香 (1963～)	ロックバンド「Sing Like Talking」のボーカル。音楽プロデューサーとして活躍。1998年、青森市制100周年記念公演を発表。
	ナンシー 塞キ (1962～2002)	著名人の似顔絵の消しゴム版画と、これを挿絵として使ったコラムで人気を博した。		フクシ ミツル 吹越 満 (1965～)	俳優。数多くの映画、ドラマに出演。シリアスなものからコミカルなものまで、幅広い役柄を演じ、独特の存在感を発揮している。
	ネキワ 沖澤 のどか (1987～)	世界的指揮者の登竜門で小澤征爾さんらを輩出した仏プザンソン国際若手指揮者コンクールで、2019年に優勝を果たした。日本人として10人目。観客賞とオーケストラ賞も総なめする快挙。		サカモト 坂本 サトル (1967～)	シンガーソングライター。路上、飲食店、レコード店などでの「CD実演販売ライブ」が話題に。代表曲「天使達の歌」など。
	サイトウ ハルカ 齋藤 春香 (1970～)	八戸市出身。ソフトボール選手・指導者。2000年シドニー、2004年アテネオリンピックに出場し、主砲として活躍し、2大会連続で銀メダルを獲得。2008年北京オリンピックでは、ソフトボール日本代表監督として金メダルに導いた。		コサカ ダイマオウ 古坂 大魔王 (1973～)	青森市出身。お笑いタレント。「ピコ太郎」の音楽プロデューサーとして「PPAP」を歌う動画の再生回数が1億回を超えるなど世界的に話題となった。
オハラ ヒトミ 小原 日登美 (1981～)	八戸市出身。2012年ロンドンオリンピック女子レスリング48キロ級で金メダルを獲得。	キタヤマ ヨウイチ 北山 陽一 (1974～)	人気男性ヴォーカルグループ、ゴスペラーズのメンバーとして活躍。2008年には八戸市から八戸大使に任命される。		
イチヨウ テハル 伊調 千春 (1981～)	八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京オリンピック女子レスリング48キロ級で、2大会連続銀メダルを獲得。	ヨコハマ サトコ 横浜 聡子 (1978～)	青森市出身。2008年、商業映画デビュー作「ウルトラミラクルラブストーリー」を監督。全国公開され、多くの海外映画祭にて上映された。		
イズミ ヒロシ 泉 浩 (1982～)	大間町出身。2004年アテネオリンピック男子柔道90キロ級で銀メダルを獲得。	じろう (1978～)	弘前市出身。お笑いコンビ「シノズ」のボケ担当。キングオブコント2014優勝。コントで培った演技力が評価され俳優として活動するほか、ドラマの脚本を手掛けるなど活躍の場を広げている。		
イチヨウ カオリ 伊調 馨 (1984～)	八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロオリンピック女子レスリングで、金メダルを獲得。女子個人種目では五輪史上初となる4大会連続を成し遂げ、2016年に国民栄誉賞を受賞。	ニヤマ テハル 新山 千春 (1981～)	青森市生まれ。タレント、クイズ番組などのバラエティ番組で活躍中。		
フルカワ タカハル 古川 高晴 (1984～)	青森市出身。2012年ロンドンオリンピックアーチェリー男子個人に出場し銀メダルを獲得、2021年東京オリンピックでは男子個人と男子団体で銅メダルを獲得した。	マツヤマ 松山 ケンイチ (1985～)	むつ市出身の俳優。映画「デスノート」で一躍脚光を浴びる。全編青森県ロケ、全編津軽弁の映画「ウルトラミラクルラブストーリー」に主演。2012年NHK大河ドラマ「平清盛」主演。		
テンマ ユキ 天摩 由貴 (1990～)	青森市出身。2021年東京パラリンピックに日本代表チームキャプテンとして出場し銅メダルを獲得。	エリー ELLY (1987～)	三沢市出身。人気グループ「3代目】SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE」のパフォーマー。		
シバサキ ガク 柴崎 岳 (1992～)	野辺地町出身。プロサッカー選手。2018年FIFAワールドカップにおいて、青森県勢初の日本代表として健闘し、決勝トーナメント進出に貢献した。	ヨマイ レン 駒井 蓮 (2000～)	平川市出身の女優。2021年全編津軽地方でロケ撮影が行われた映画「ひとみち」に映画単独初主演したほか、NHK大河ドラマ「青天を衝け」に出演。		

⑧ 体育・スポーツ施設

2018年度にスポーツ庁が実施した「体育・スポーツ施設現況調査」によれば、県内の公共スポーツ施設は798施設ある。2022年12月1日現在の主な県有体育施設は、次のとおりである。このほか、2024年4月からの開業に向けて、新青森県総合運動公園内に新水泳場の整備を進めている。

- カクヒログループアスレチックスタジアム〔新青森県総合運動公園陸上競技場〕（青森市）
- マエダアリーナ〔新青森県総合運動公園総合体育館〕（青森市）
- 青森県総合運動公園野球場、屋外水泳場（青森市）
- 盛運輸アリーナ〔青森県営スケート場〕（青森市）
- 青森県武道館（弘前市）

⑨ 県内を拠点に活動するプロスポーツチーム

県内には、地域と深く密着しながら活動するプロスポーツチームがあり、スポーツ振興や地域の活性化に貢献している。

【主なプロスポーツチーム】

- 青森ワッツ（バスケットボール）
青森県を本拠地とするプロバスケットボールチーム。青森県内に初めて設立されたプロスポーツチームで、B.LEAGUE に参戦している。
- HACHINOHE DIME（3人制バスケットボール）
3人制のプロバスケットボールチーム。2019年から3x3.EXE PREMIER に参戦している。
- ヴァンラーレ八戸FC（サッカー）
2018年11月にJ3昇格が正式決定。Jリーグ入会は青森県勢初。
- 東北フリーブレイズ（アイスホッケー）
八戸市と福島県郡山市をホームタウンとして活動。2009年からアジアリーグに加盟している東北初のトップリーグチーム。

⑩ 総合型地域スポーツクラブ

「誰でも、いつでも、いつまでも」スポーツができる環境づくりと地域コミュニティの形成に向け、「多世代」、「多志向」、「多種目」により、地域住民が主体となって運営する「総合型地域スポーツクラブ」が全国で展開されている。

本県では、2022年5月31日現在、33市町村で42の総合型地域スポーツクラブが創設されている。また、1町1クラブが創設に向け準備を進めている。（次頁表4）

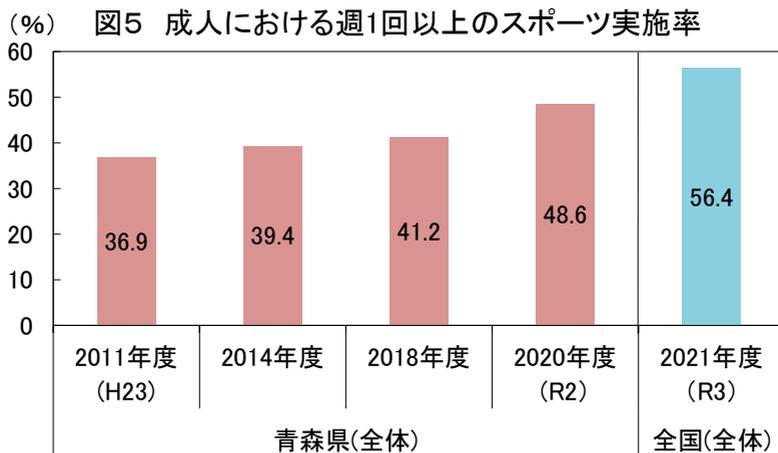
表 4 県内の総合型地域スポーツクラブ

クラブ名	市町村名
青森総合スポーツクラブ Willスポーツクラブ 総合型地域スポーツクラブ CLUB Salute Inizio青森	青森市
株式会社リベロスポーツクラブ NPO法人スポネット弘前	弘前市
ヴァンラーレ八戸スポーツクラブ リベロ八戸SC (旧ウインズスポーツクラブ) 一般社団法人総合型地域スポーツHachinohe Club 総合型地域スポーツ・文化クラブ デポルターレ八戸	八戸市
くろいしアスリート アンド エンジョイクラブ	黒石市
五所川原総合スポーツクラブ	五所川原市
総合型スポーツクラブ RED HORSE	十和田市
スポーツクラブみさわ	三沢市
むつアスリートクラブ	むつ市
いながきスポーツクラブ 車力楽笑スポーツクラブ	つがる市
ひらかわスポーツクラブ	平川市
平内ふれあいスポーツクラブ 平内町総合型地域スポーツクラブACE	平内町
今別町地域総合型クラブWAND	今別町
よもっと元気スポーツクラブ	蓬田村
東津軽郡スポーツクラブ	外ヶ浜町
鱒ヶ沢町スポーツ協会	鱒ヶ沢町
総合型地域スポーツクラブ Joy Spo! ふかうら	深浦町
ふじさきいきいきスポーツクラブ	藤崎町
一般社団法人 Roots 大鰐	大鰐町
田舎館村総合型地域スポーツクラブ	田舎館村
りんごの里スポーツクラブ	板柳町
鶴田町放課後子どもプラン・子どもスポーツクラブ	鶴田町
六戸町B&Gクラブ	六戸町
横浜町総合型地域スポーツクラブ	横浜町
東北町旭町地区総合型地域スポーツクラブ	東北町
ひばりさわやかスポーツクラブ	六ヶ所村
大間町総合型地域スポーツクラブ	大間町
東通村総合型地域スポーツクラブ	東通村
五戸町スポーツクラブ	五戸町
スポネットたっこ	田子町
一般社団法人総合型クラブななっち	南部町
一般社団法人ライズはしかみ	階上町
一般社団法人さんのへスポーツクラブEnjoy	三戸町
三ツ岳スポーツクラブ	新郷村

資料：青森県広域スポーツセンター（県教育庁スポーツ健康課内）

⑪ 県民のスポーツ実施率

成人における週1回以上のスポーツ実施率は、着実に増加しているものの全国平均を下回っている。(図5)



資料: 県教育庁「県民の健康・スポーツに関する意識調査」、
スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

⑫ あおもりアスリートネットワーク

本県にゆかりのあるオリンピックやトップアスリート、指導者等が主体となり、スポーツを通じた様々な社会貢献活動を展開する「あおもりアスリートネットワーク」が2012年11月に設立され、県民のスポーツを推進するための活動や、本県における競技力向上のための活動、青少年の健全育成や健康増進のための活動を行っている。(令和4年12月時点、メンバー41名)(次頁表6)

表6 あおもりアスリートネットワークメンバー（2022年12月現在）

No.	役員	氏名	競技種目
1	代表	齋藤 春香	ソフトボール
2	副代表	赤石 光生	レスリング
3	副代表	金濱 康光	スピードスケート
4	副代表	三ヶ田 礼一	ノルディックスキー
5	幹事	野澤 英二	車椅子マラソン・バイアスロン
6	幹事	山下 祐史	ラグビー
7	幹事	山谷 千春	レスリング
8	会計監事	吉田 理子	ボート
9		五十嵐 理一	ボクシング
10		泉 浩	柔道
11		伊調 馨	レスリング
12		岩谷 高峰	アルペンスキー
13		蝦名 康一	レスリング
14		小原 日登美	レスリング
15		金浜 良	レスリング
16		岸本 鷹幸	陸上競技(400mハードル)
17		熊谷 克仁	アルペンスキー
18		蹴揚 将行	柔道
19		古川 純一	ノルディックスキー
20		齋藤 直飛人	相撲
21		坂本 勉	自転車競技
22		坂本 朋子	アルペンスキー・シッティングバレーボール
23		佐々木 一成	ノルディックスキー
24		春藤 るみ	新体操
25		当麻 成人	水球
26		高橋 一馬	アイスホッケー
27		鳥谷部 真弓	柔道
28		中澤 祐政	ノルディックスキー
29		中嶋 亜矢	女子ラグビー
30		長濱 一年	ノルディックスキー
31		新山 夏葵	テコンドー
32		野口 紀子	ボート
33		籾 修子	ノルディックスキー
34		畑山 茂雄	陸上競技(円盤投げ)
35		藤田 博臣	柔道
36		福士 加代子	陸上競技(長距離)
37		古川 高晴	アーチェリー
38		三浦 孝之	アイスホッケー
39		三上 正貴	ラグビー
40		宮崎 未樹子	柔道・レスリング
41		吉本 岳史	サッカー